神田川整備工事（その153）

工 事 説 明 会

日時： 平成 29 年 3 月 28 日

東京都第三建設事務所
大豊・黒部建設共同企業体

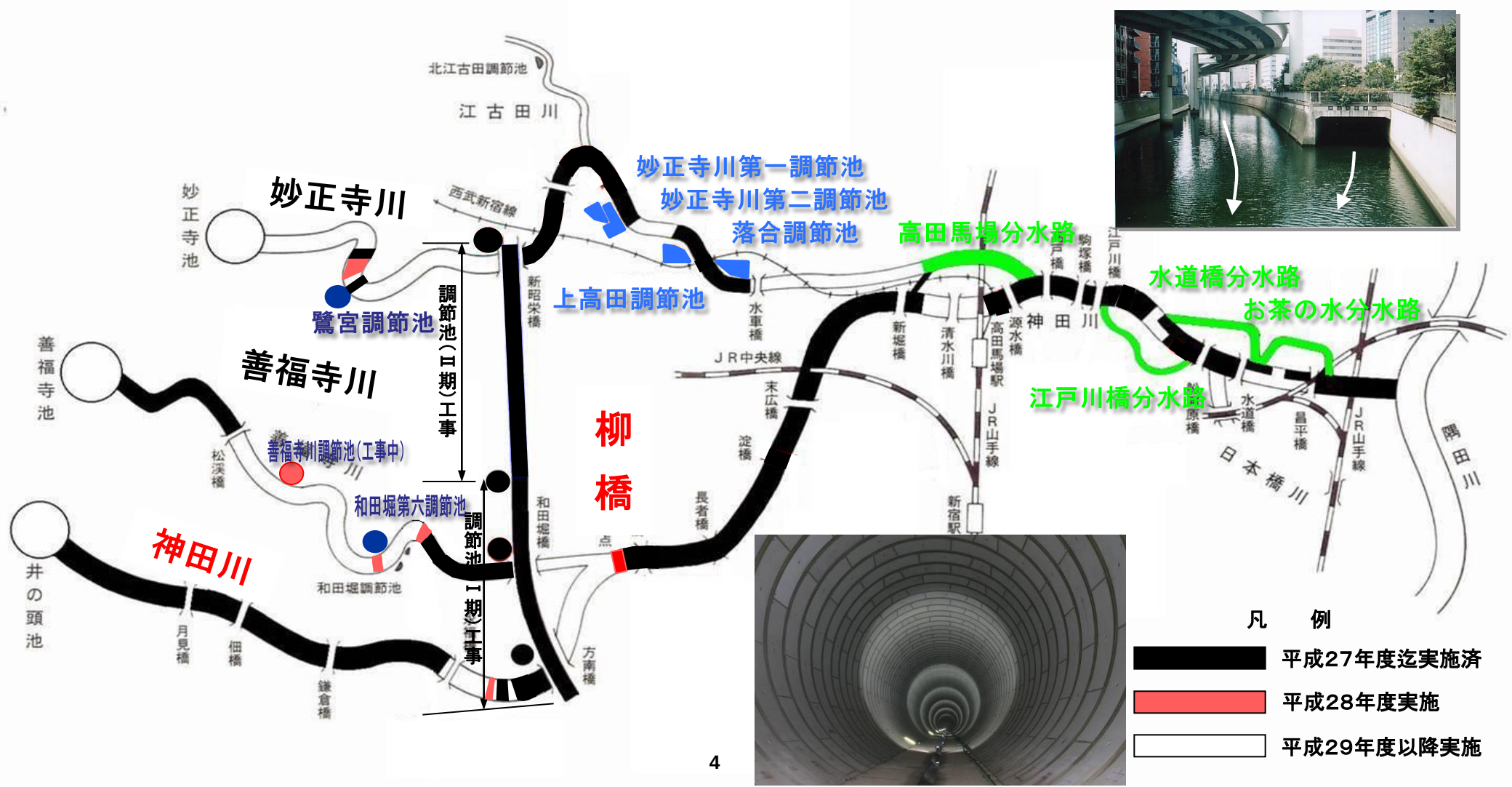
河川整備の概要

河川整備の概要

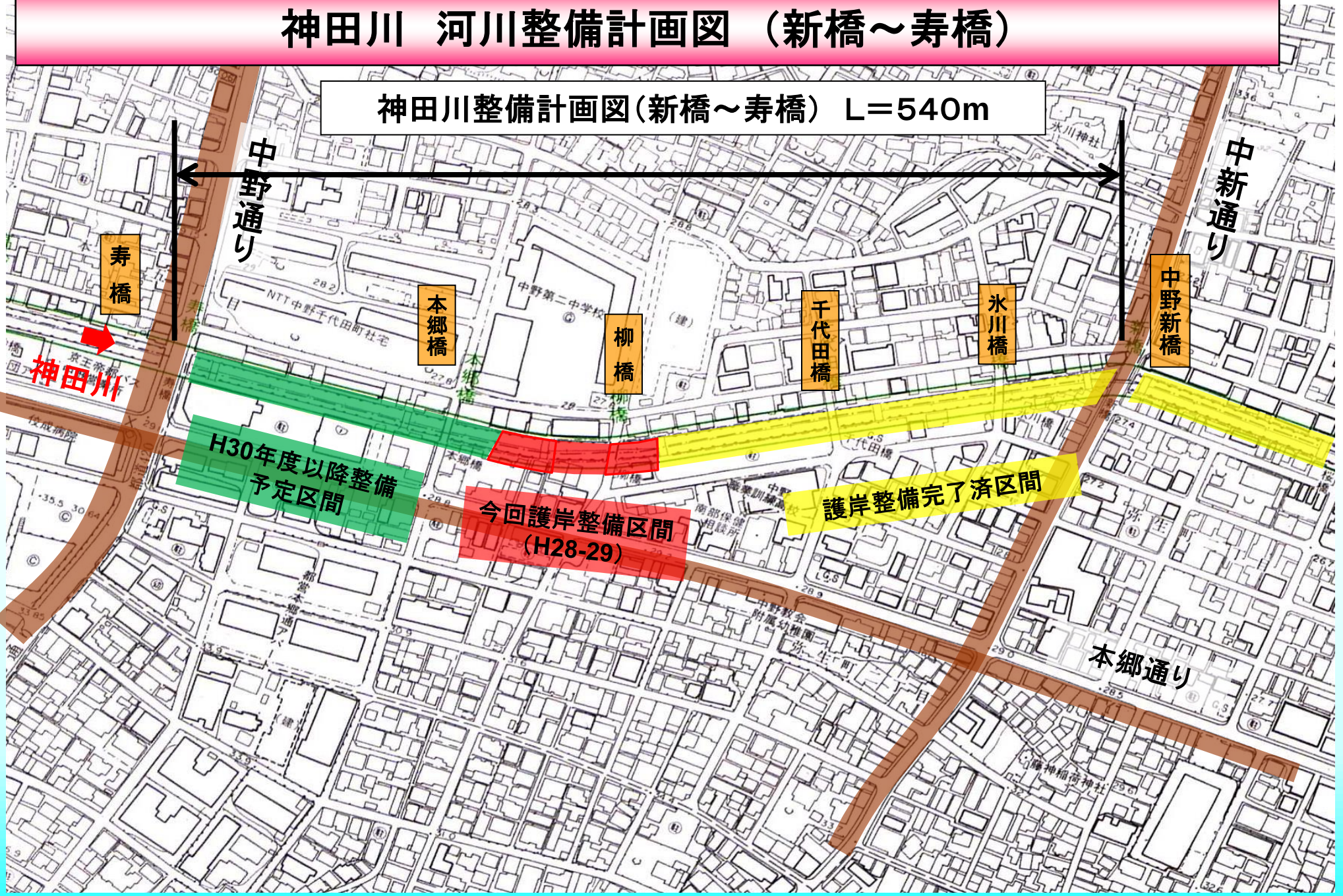
- 神田川では大雨、洪水に対処する河川整備を進めております。
- 整備にあたっては、川幅を広げることを基本に、調節池や分水路を組み合せるなど治水安全度の早期向上に取組んでいます。

神田川　河川整備の概要

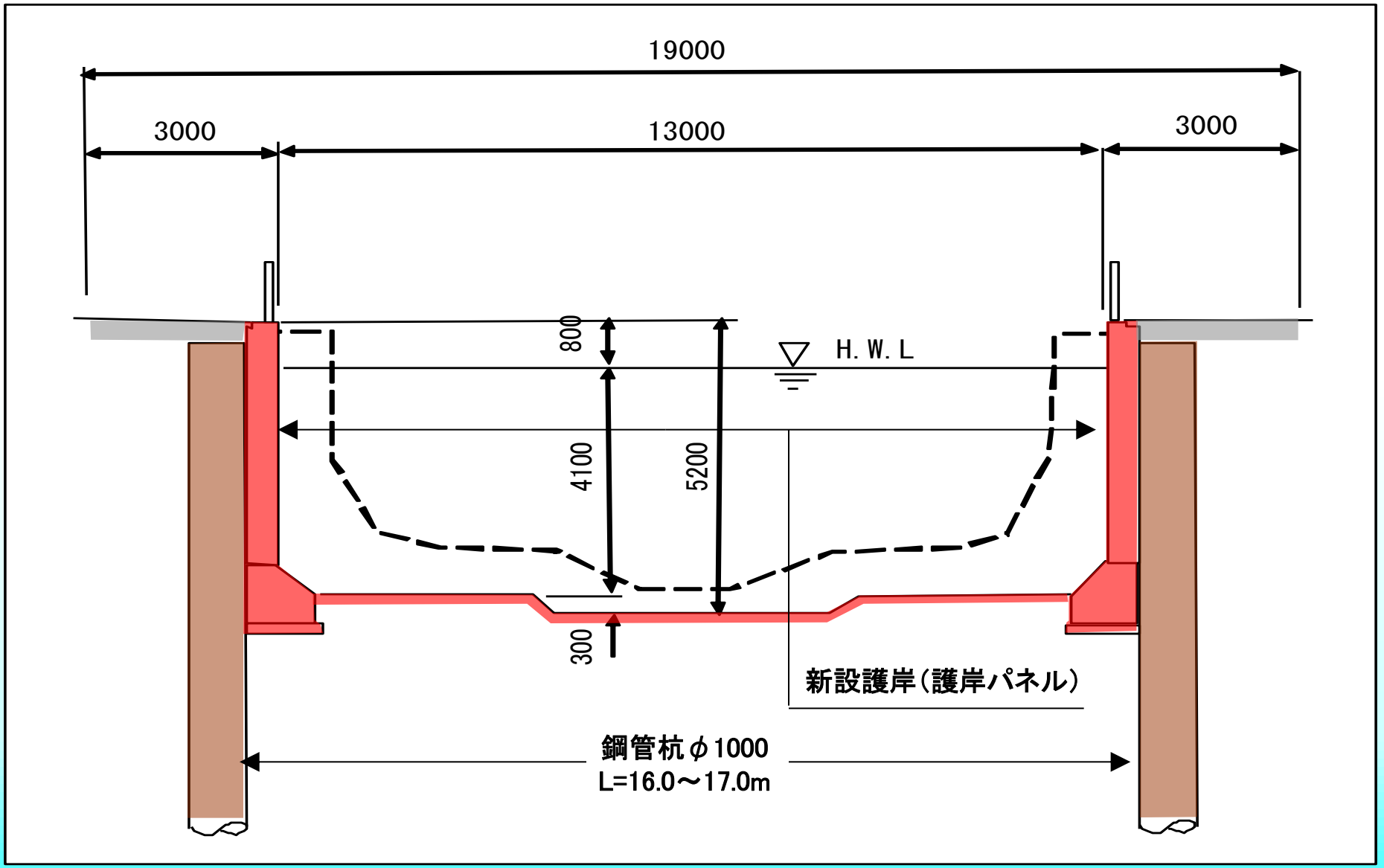
護岸整備・分水路・調節池を組み合わせて、治水安全度の早期向上に取組んでいます。



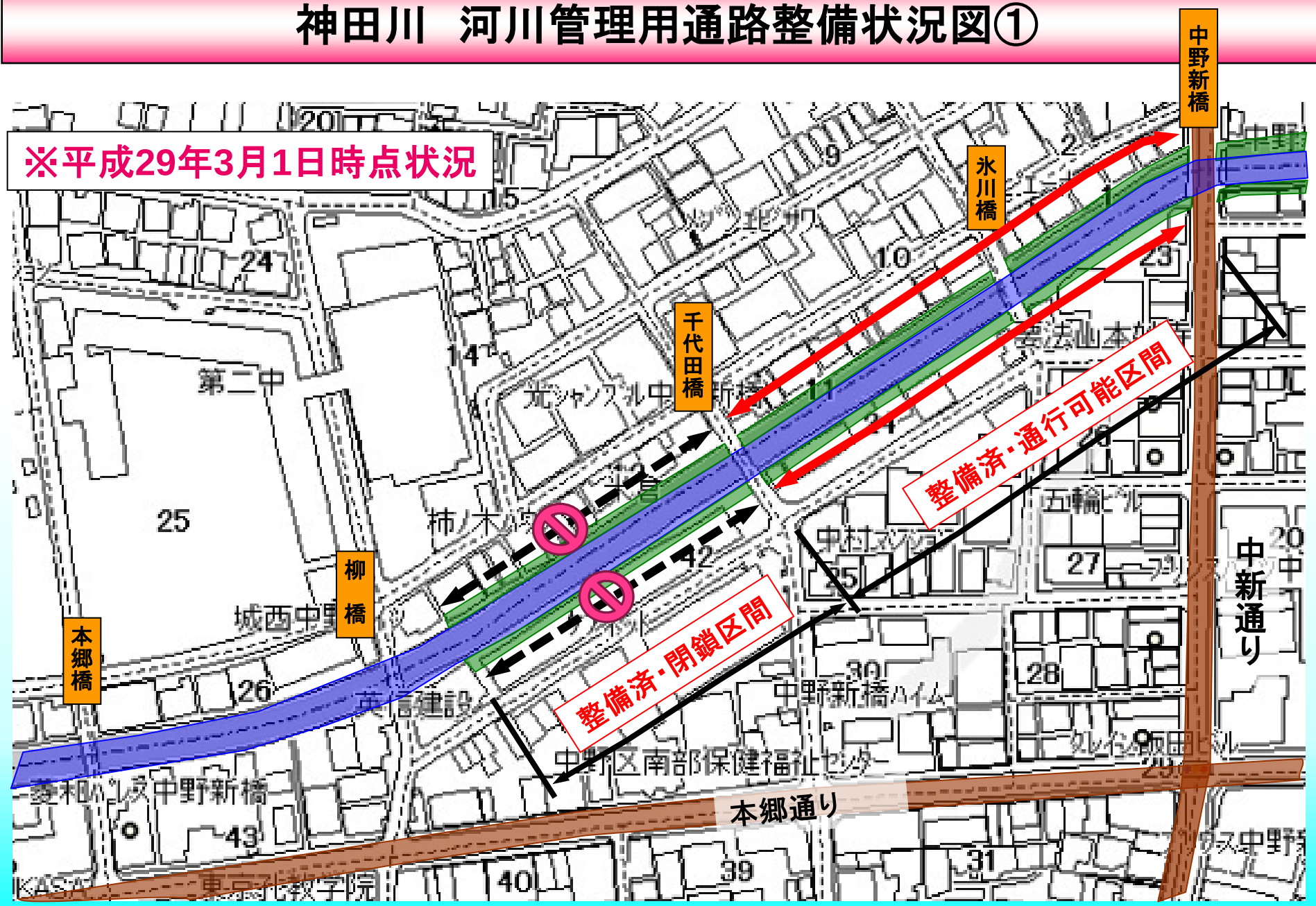
神田川　河川整備計画図　（新橋～寿橋）



神田川　河川整備計画図 （計画標準断面図）



神田川　河川管理用通路整備状況図①



神田川　河川管理用通路整備状況図②

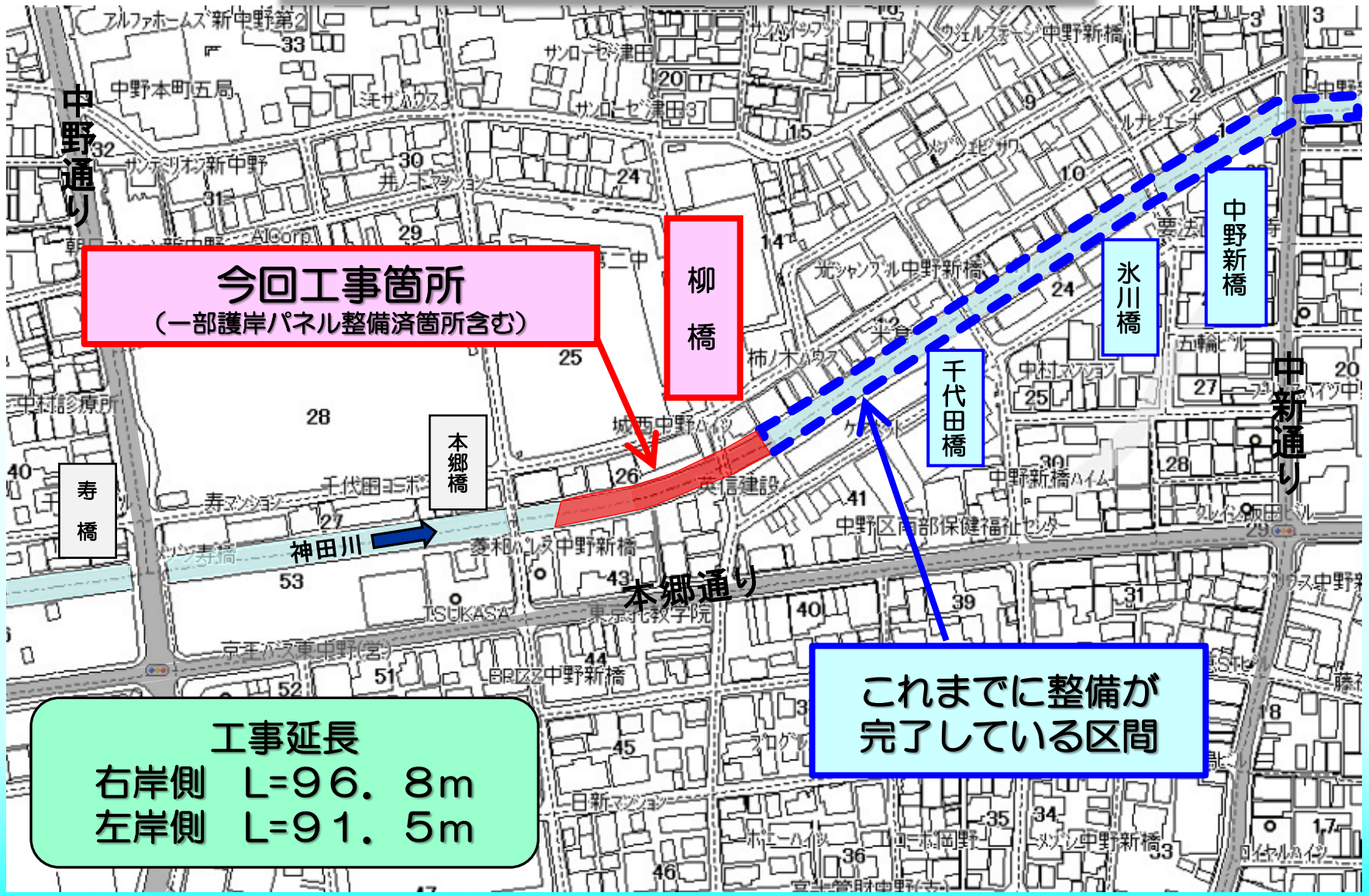
工　事　概　要

工　事　概　要

本工事は、柳橋下流側から本郷橋下流側までの区間において、両岸の護岸を新しく整備し、作業構台の設置を行うものです。

また、現在の柳橋を撤去し、新しく柳橋の架替えを行なうものです。

工　事　範　囲


今回工事箇所
（一部護岸パネル整備済箇所含む）
柳橋
本郷橋
寿橋
千代田橋
氷川橋
中野新橋
中新通り
中野通り
本郷通り
神田川
これまでに整備が
完了している区間
工事延長
右岸側　L=９６．８m
左岸側　L=９１．５m

工事前の状況

工事前の状況

柳橋上流側から本郷橋側を撮影

工事完了後のイメージ

柳橋より上流側区間

本郷橋側から柳橋側を撮影

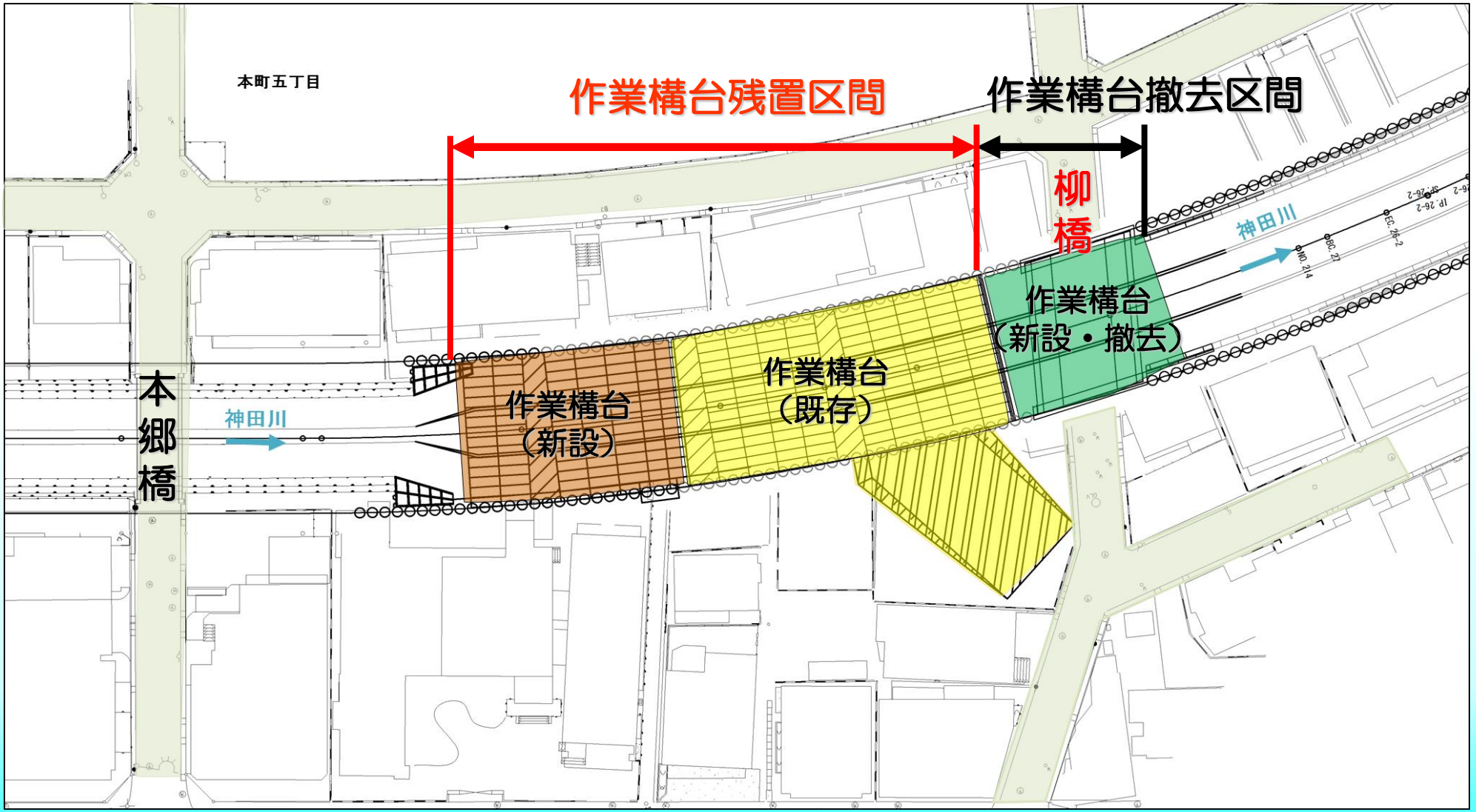
今回工事では、作業構台を設置した状態で完成となります。
写真のような作業構台が本郷橋側へ伸びていきます。
作業構台の下は新しい護岸が構築済となっています。

柳橋より下流側区間

千代田橋から氷川橋側を撮影

新しい護岸の整備を行い、護岸の両側には河川管理用通路を整備します。

工事完了時の作業構台の設置状況



工事期間及び施工時間

工事期間

自　平成２９年５月上旬
至　平成３０年３月中旬（予定）

施工時間

午前 8:00　～　午後 6:00
（日曜日は原則作業を行ないません）

柳橋の通行止め

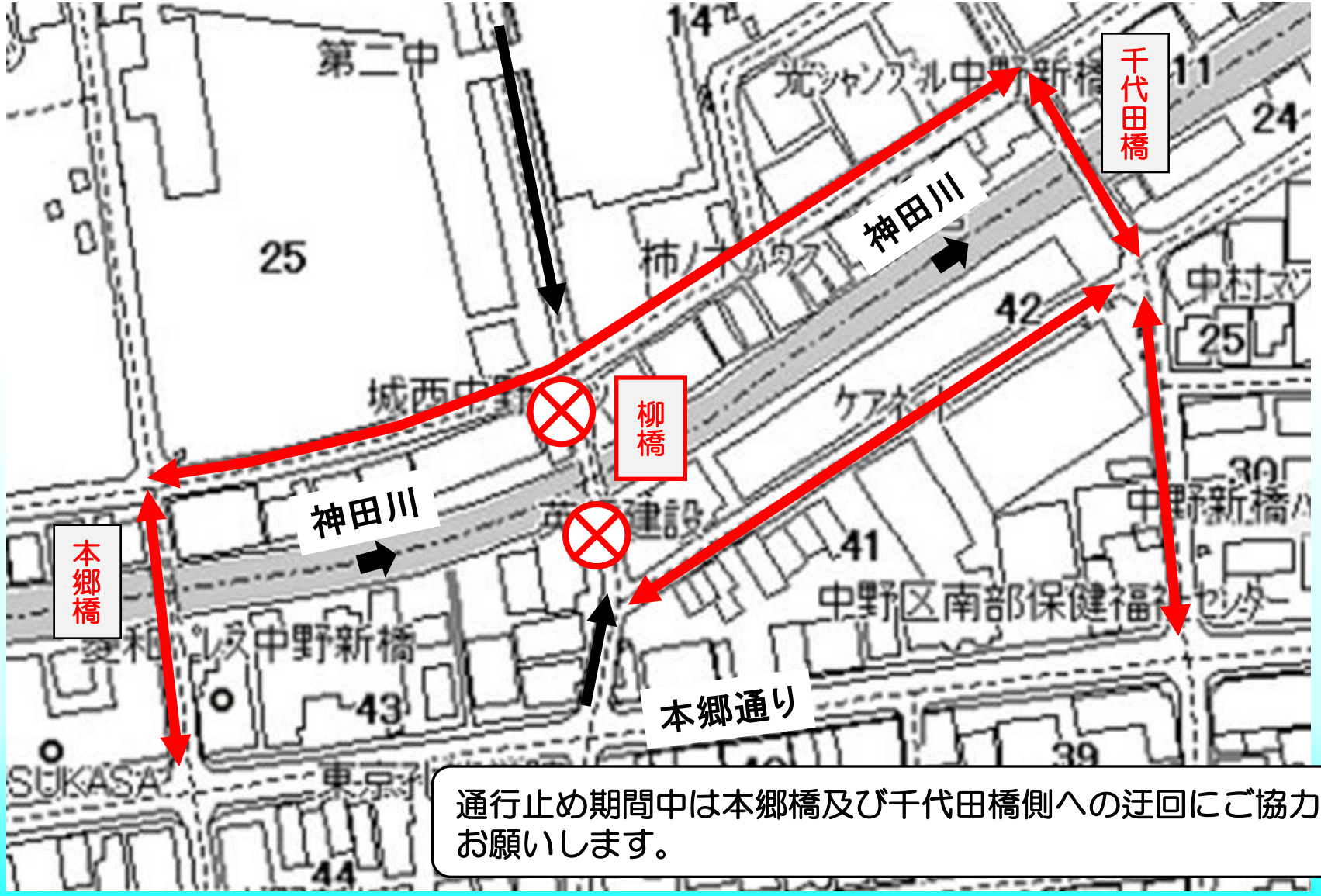
柳橋の架替え工事期間中は、車両及び歩行者とも通行止めとなります。

【 全面通行止め期間（予定）】

平成29年5月上旬から平成30年3月上旬

※24時間通行止めとなります。

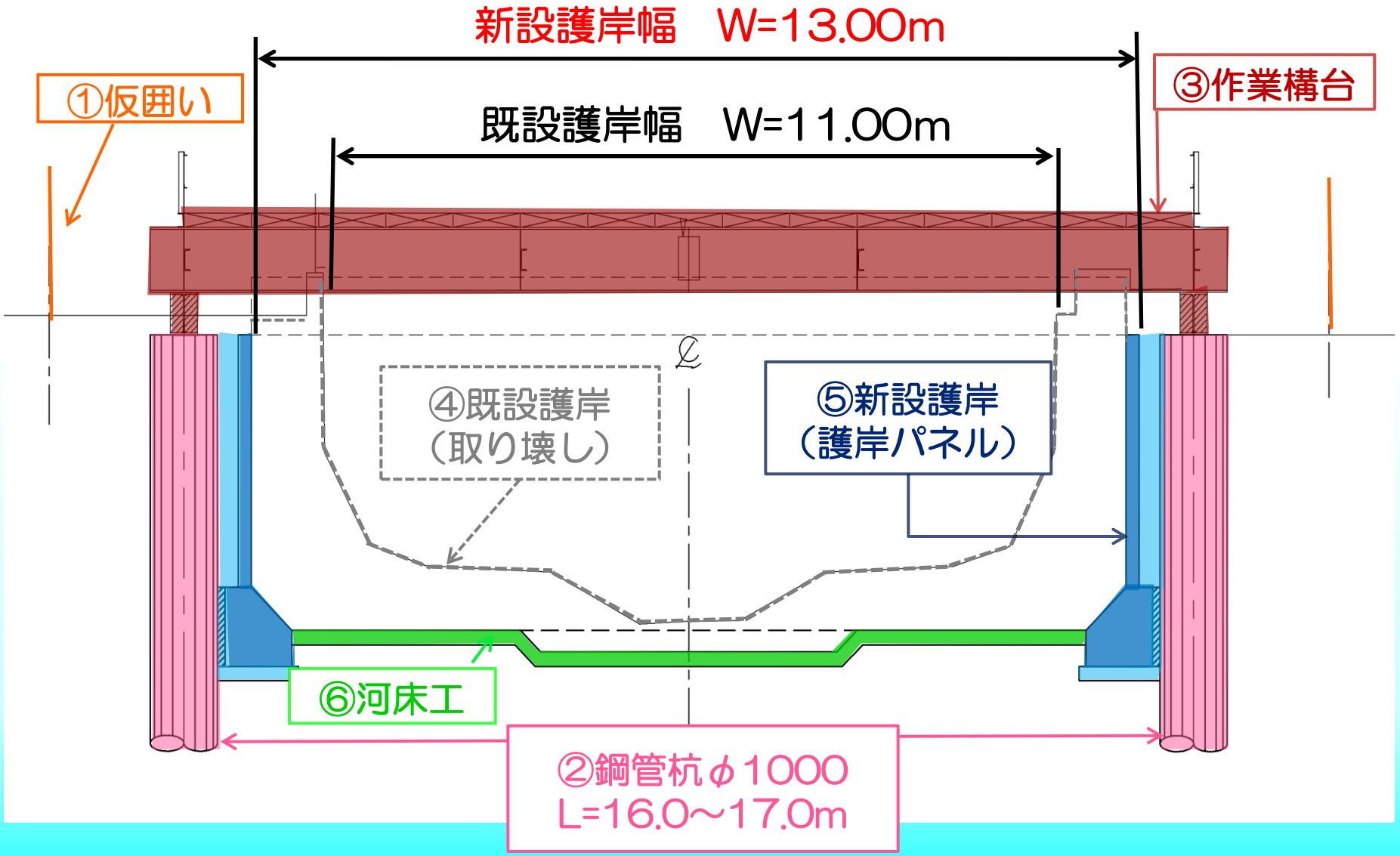
柳橋の通行止め期間中の迂回路



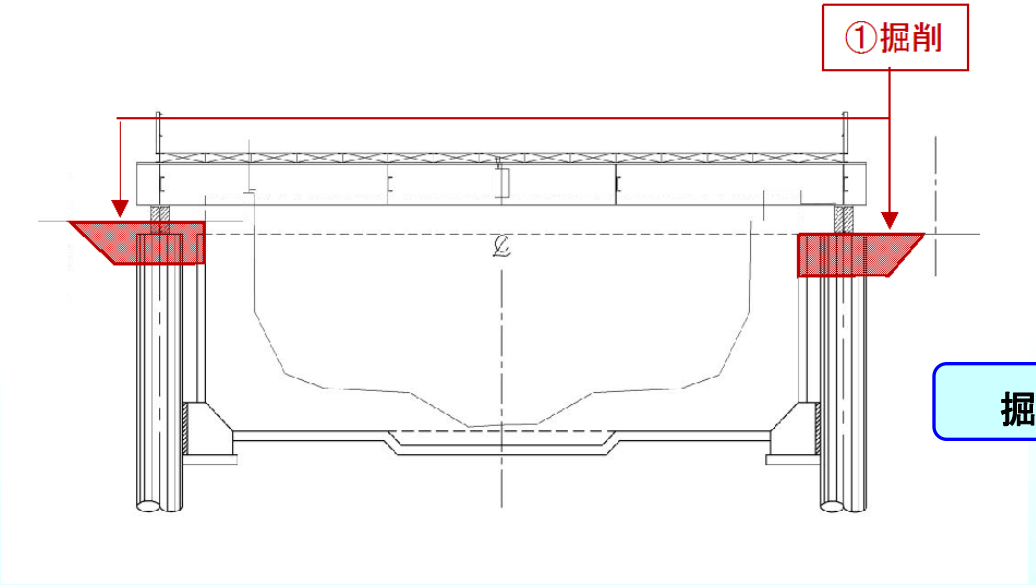
通行止め期間中は本郷橋及び千代田橋側への迂回にご協力をお願いします。

施　工　内　容

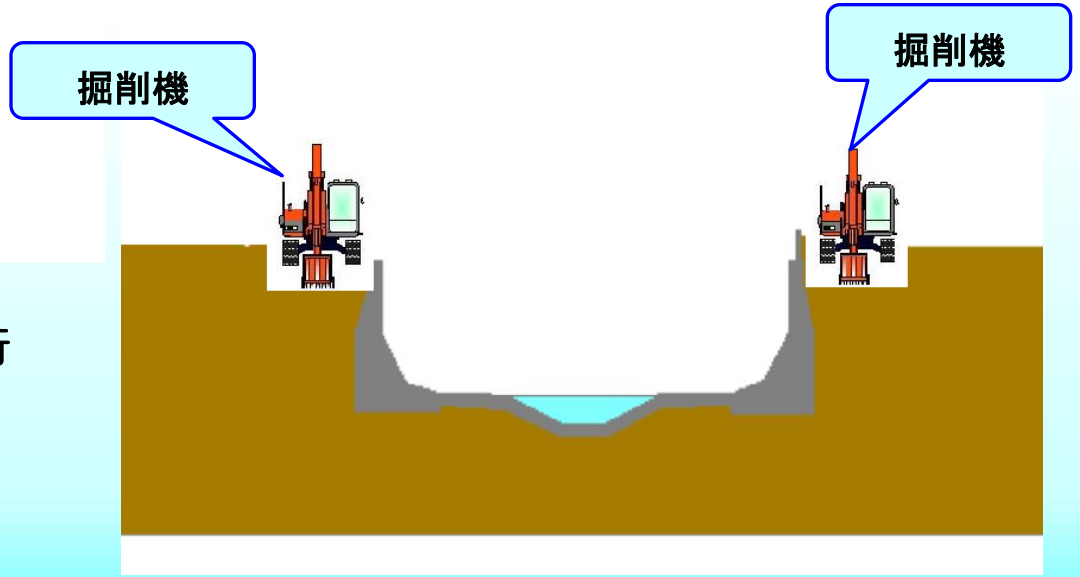
施 工 内 容（護 岸 整 備 工 事）


新設護岸幅　W=13.00m
既設護岸幅　W=11.00m
①仮囲い
③作業構台
℄
④既設護岸
（取り壊し）
⑤新設護岸
（護岸パネル）
⑥河床工
②鋼管杭φ1000
L=16.0～17.0m

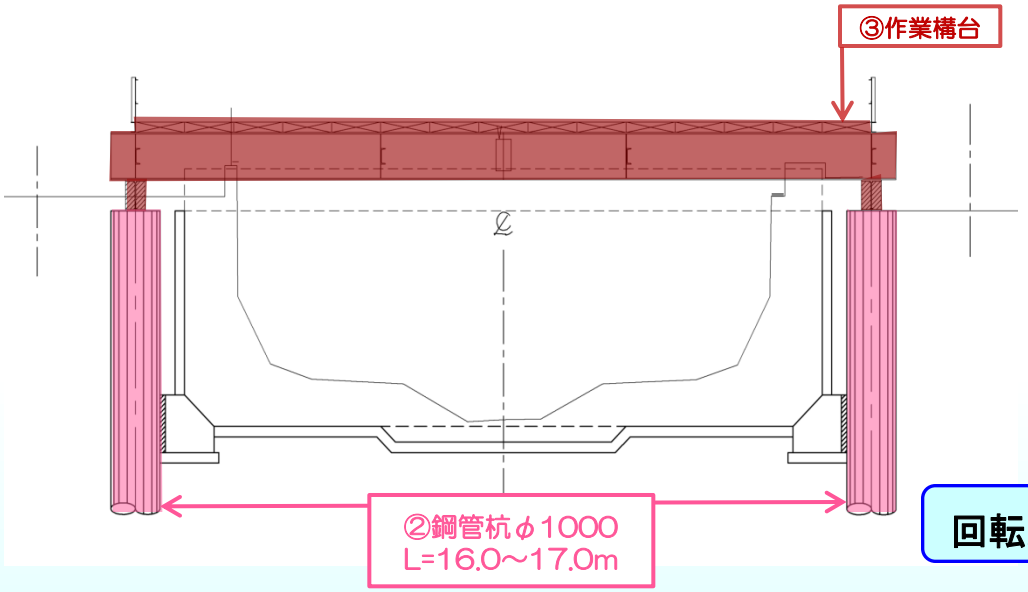
護岸整備工事　施工順序（１）

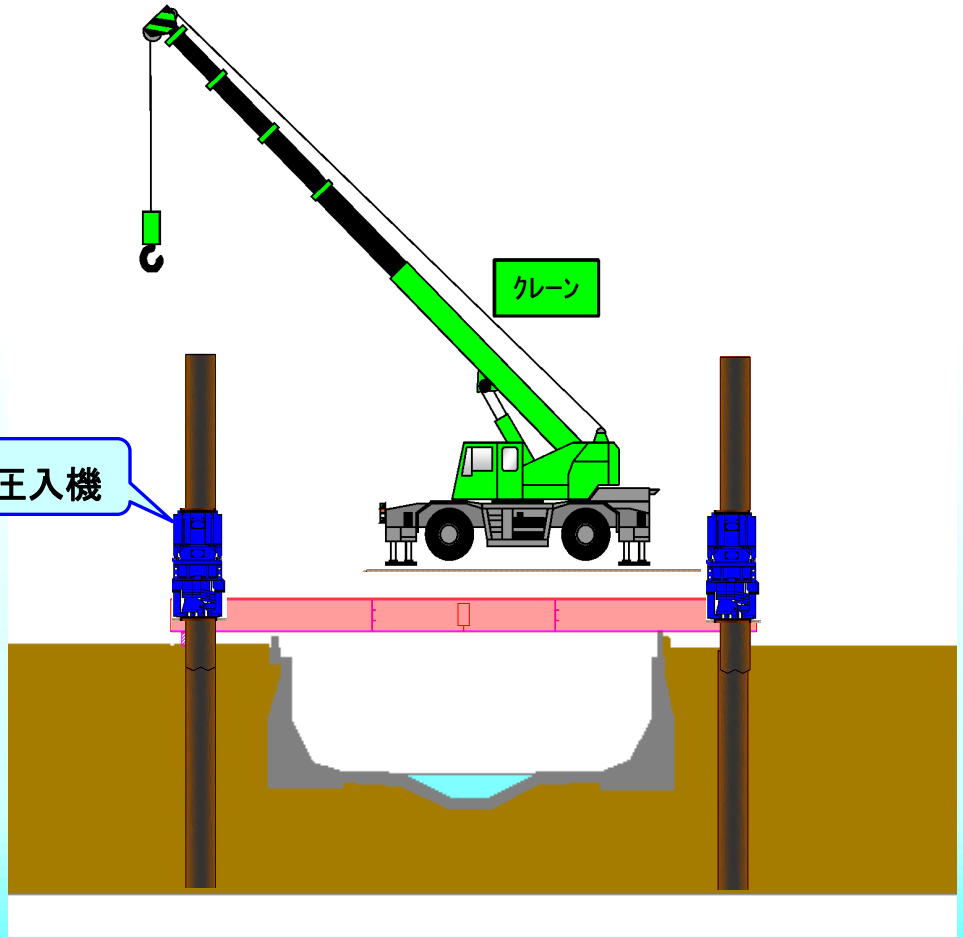


（１）鋼管杭の圧入に先立ち、掘削（赤色）を行います。



護岸整備工事　施工順序（2）～（4）





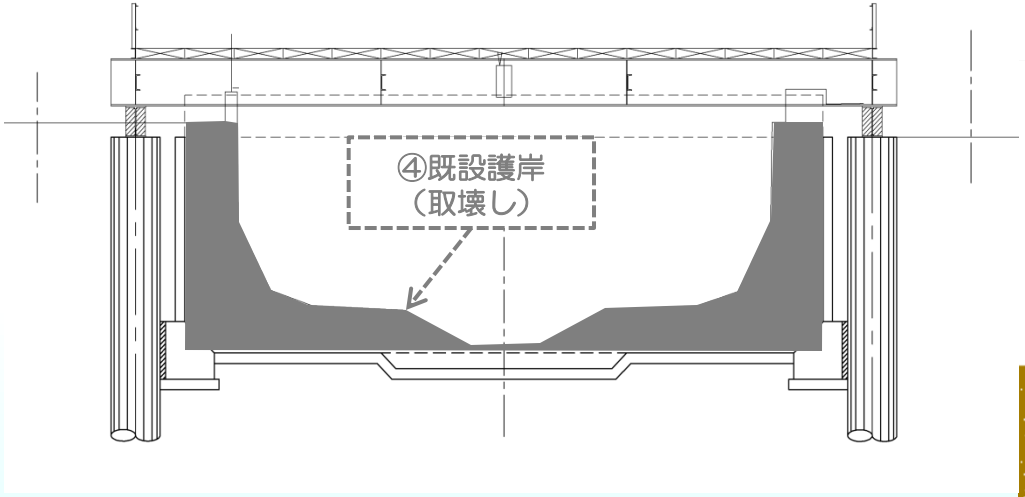
（2）鋼管杭（桃色）を回転圧入機により回転させながら土中に埋めていきます。(計37本)

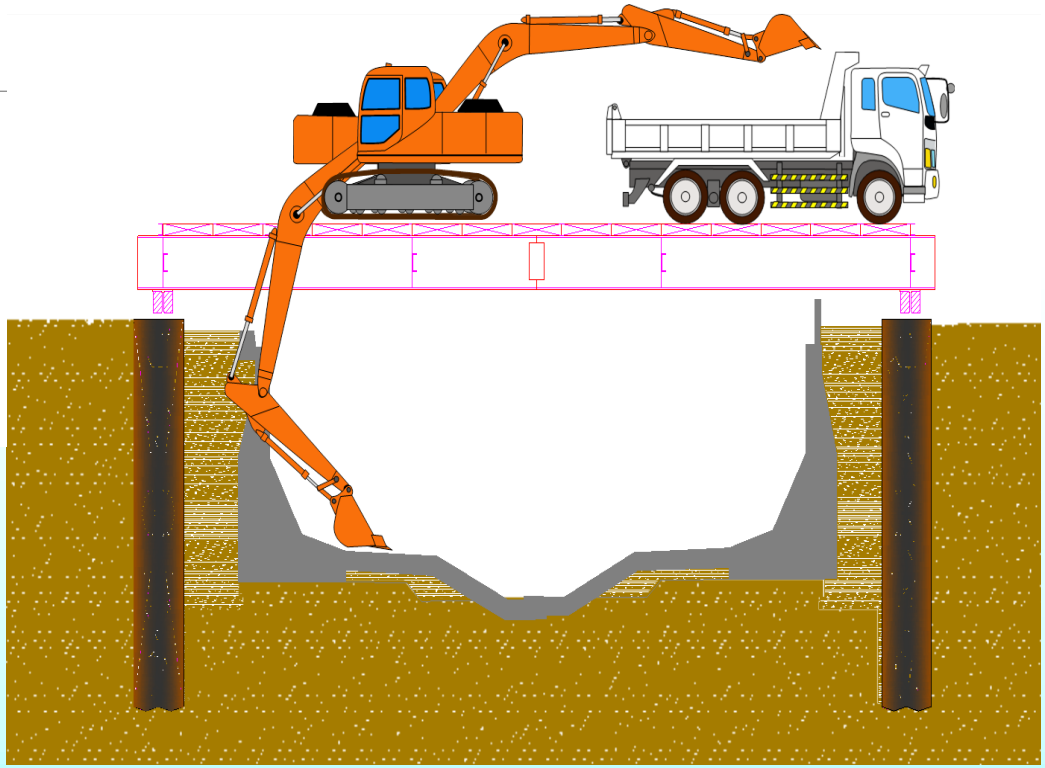
（3）土中に埋めた鋼管杭の上に、作業構台（茶色）を設置します。

（4）②と③の作業を繰り返しながら上流側（本郷橋側）に向けて進めていきます。

鋼管杭工（施工状況写真）

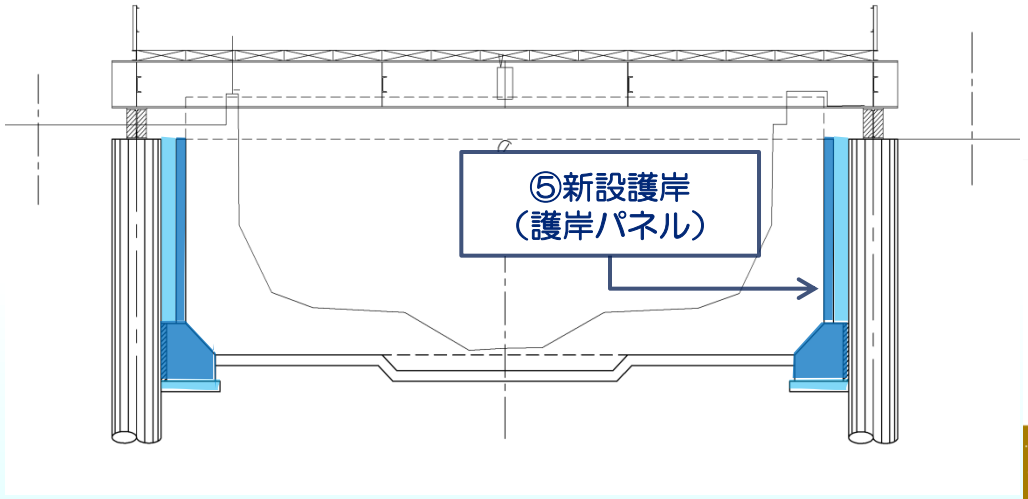
護岸整備工事　施工順序（５）

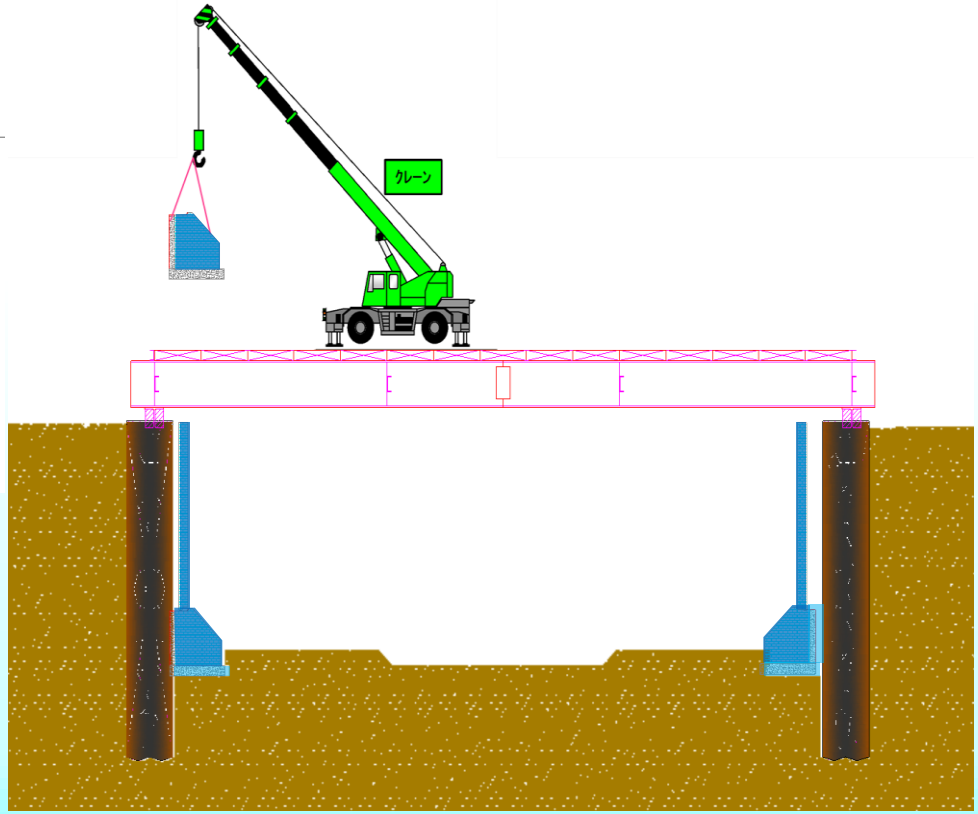




（５）鋼管杭と作業構台の設置完了後、既設護岸（灰色）を取り壊します。

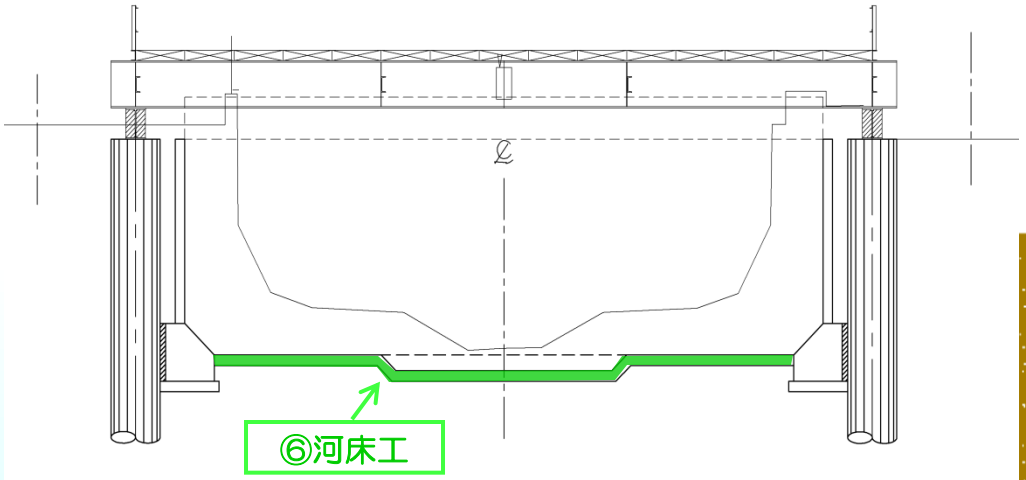
護岸整備工事　施工順序（６）

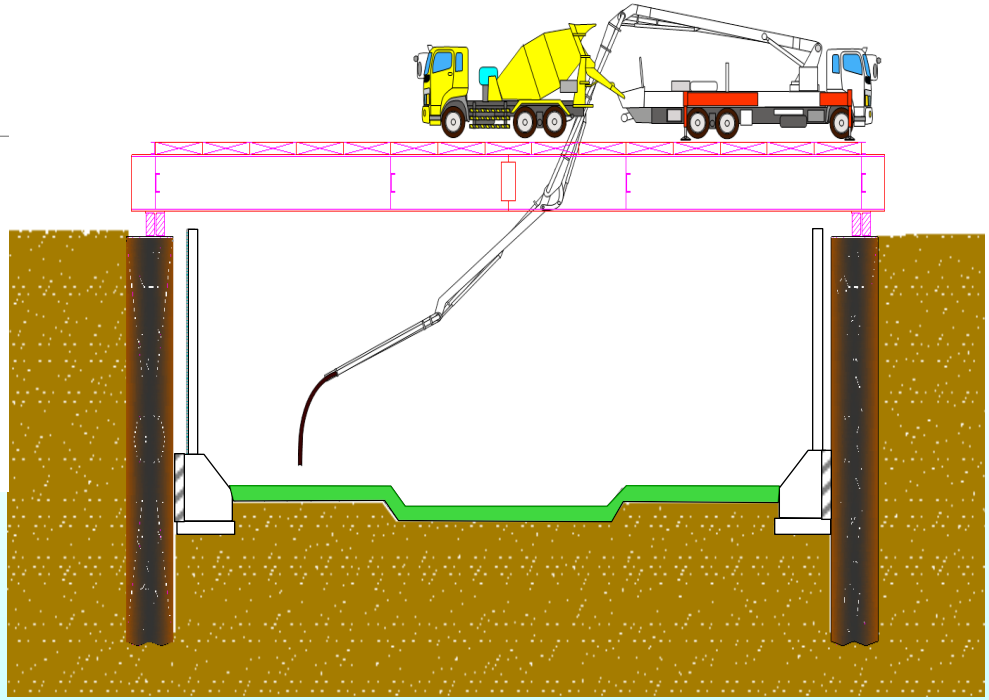




（６）既設護岸の取り壊し後、作業構台の上から
新設護岸（護岸基礎ブロック、護岸パネル）
（青色）を鋼管杭の川側に並べて設置します。

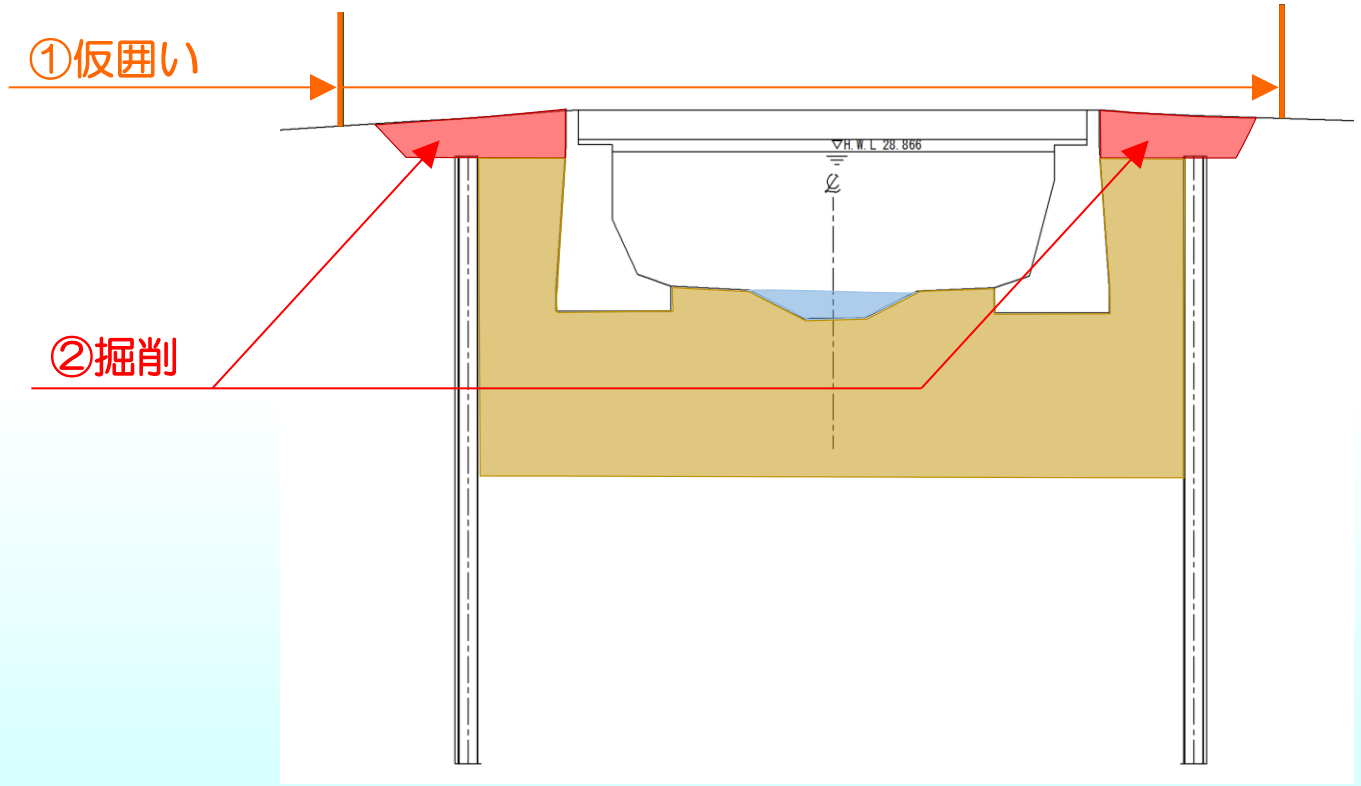
護岸整備工事　施工順序（7）





（7）新設護岸の設置後、川底に布製の型枠を敷き、型枠の中に作業構台の上からコンクリートを流し込み、河床工（緑色）を築造していきます。

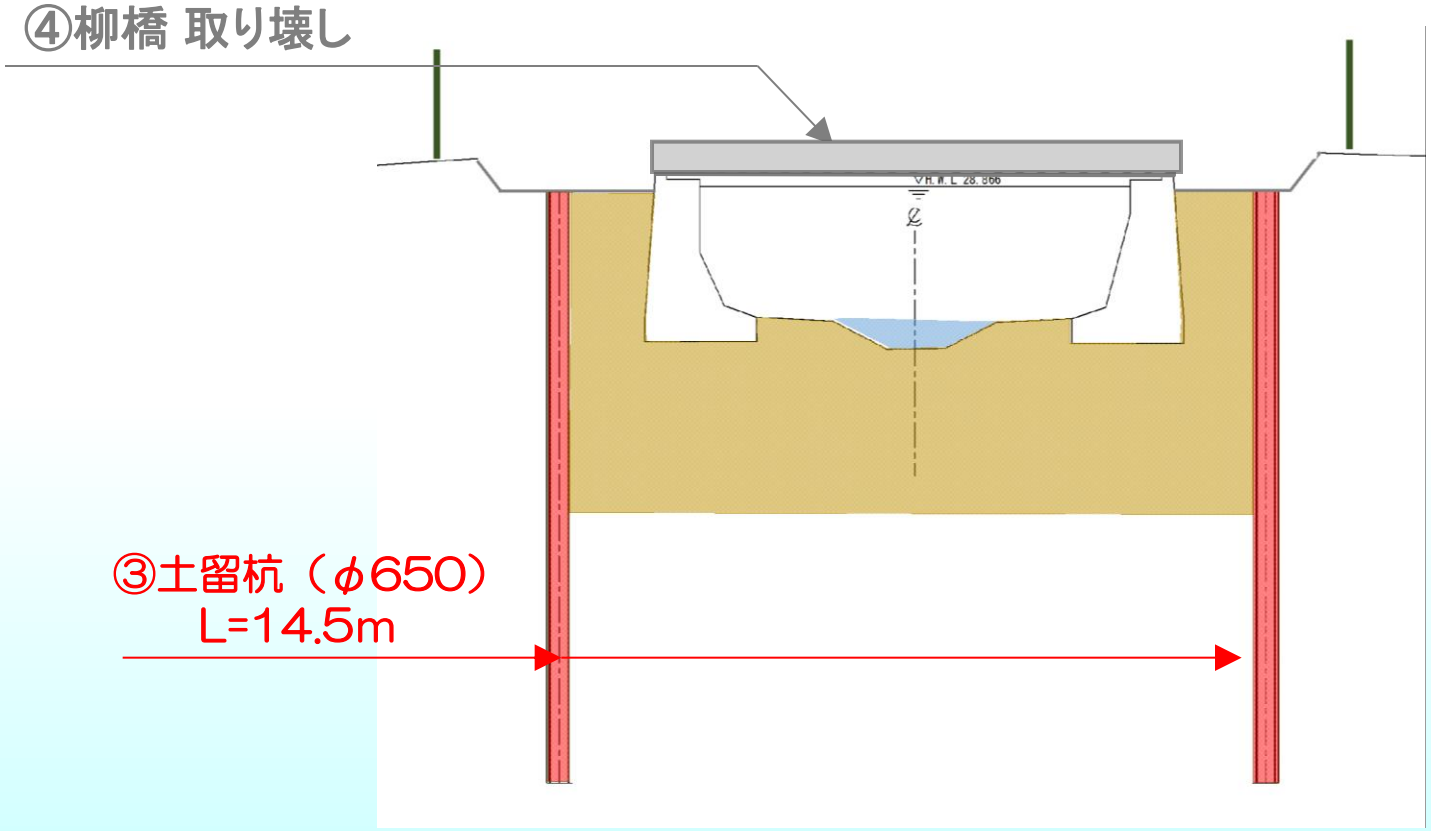
柳橋架け替え工事　施工順序（１）～（２）



（１）準備工事として、柳橋の両側に高さ３．０ｍの仮囲い（橙色）を設置します。

（２）土留杭の設置に先立ち、柳橋の橋台の背面部の掘削（赤色）を行います。

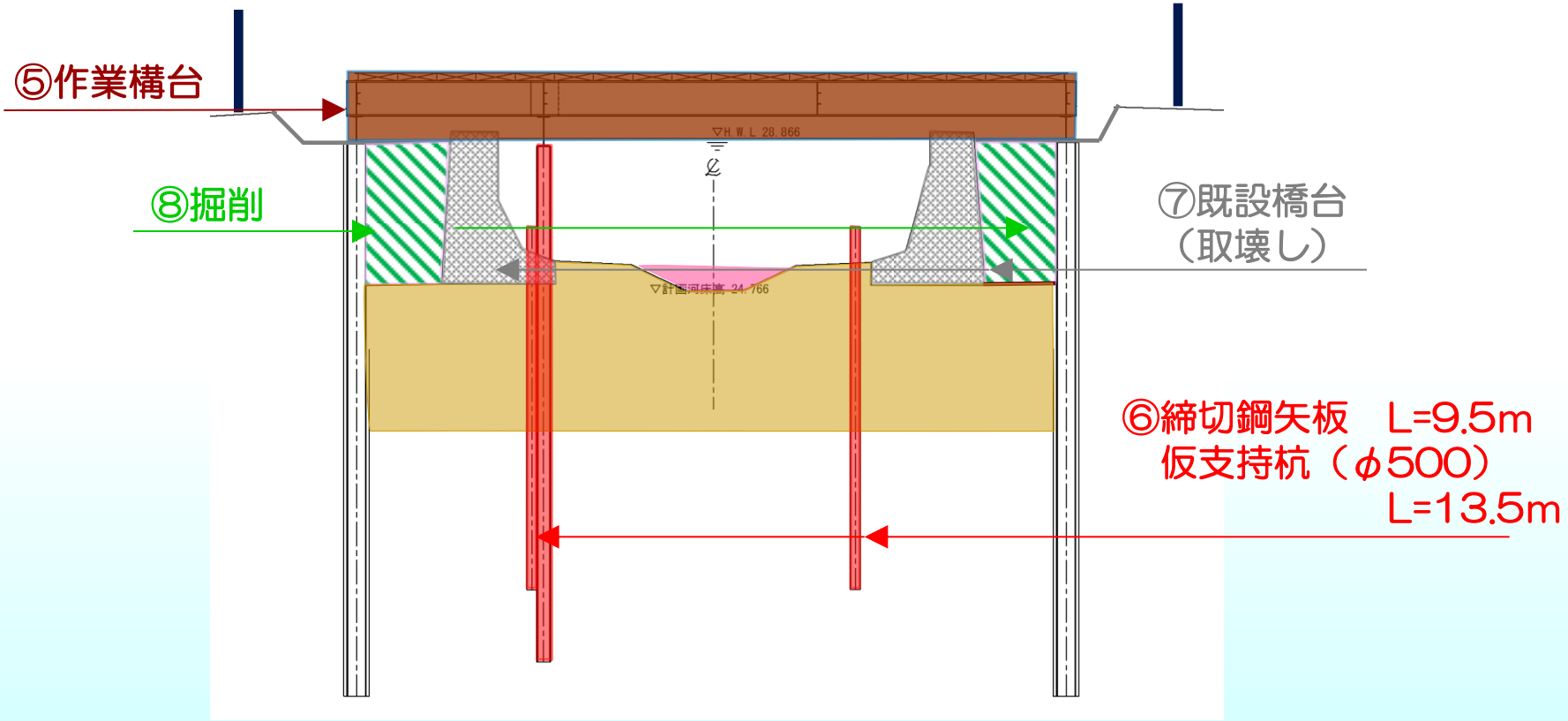
柳橋架け替え工事　施工順序（3）～（4）



（3）ボーリングマシンで土中に穴を掘り、作業構台の基礎となる土留杭（赤色）を穴の中に設置します。

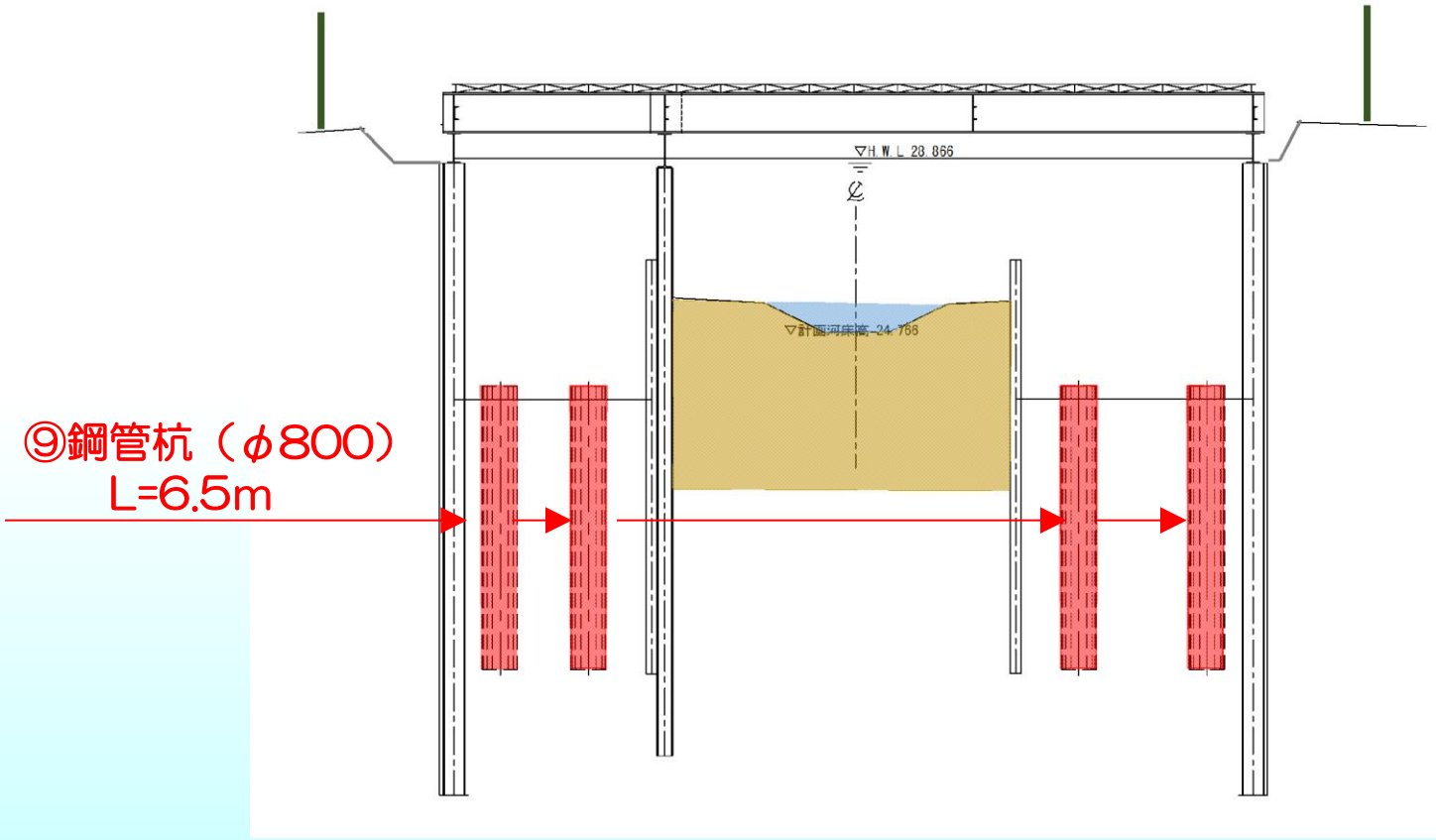
（4）現在の柳橋を切断・分割しながら撤去し、取り壊していきます。（灰色）

柳橋架け替え工事　施工順序（5）～（9）



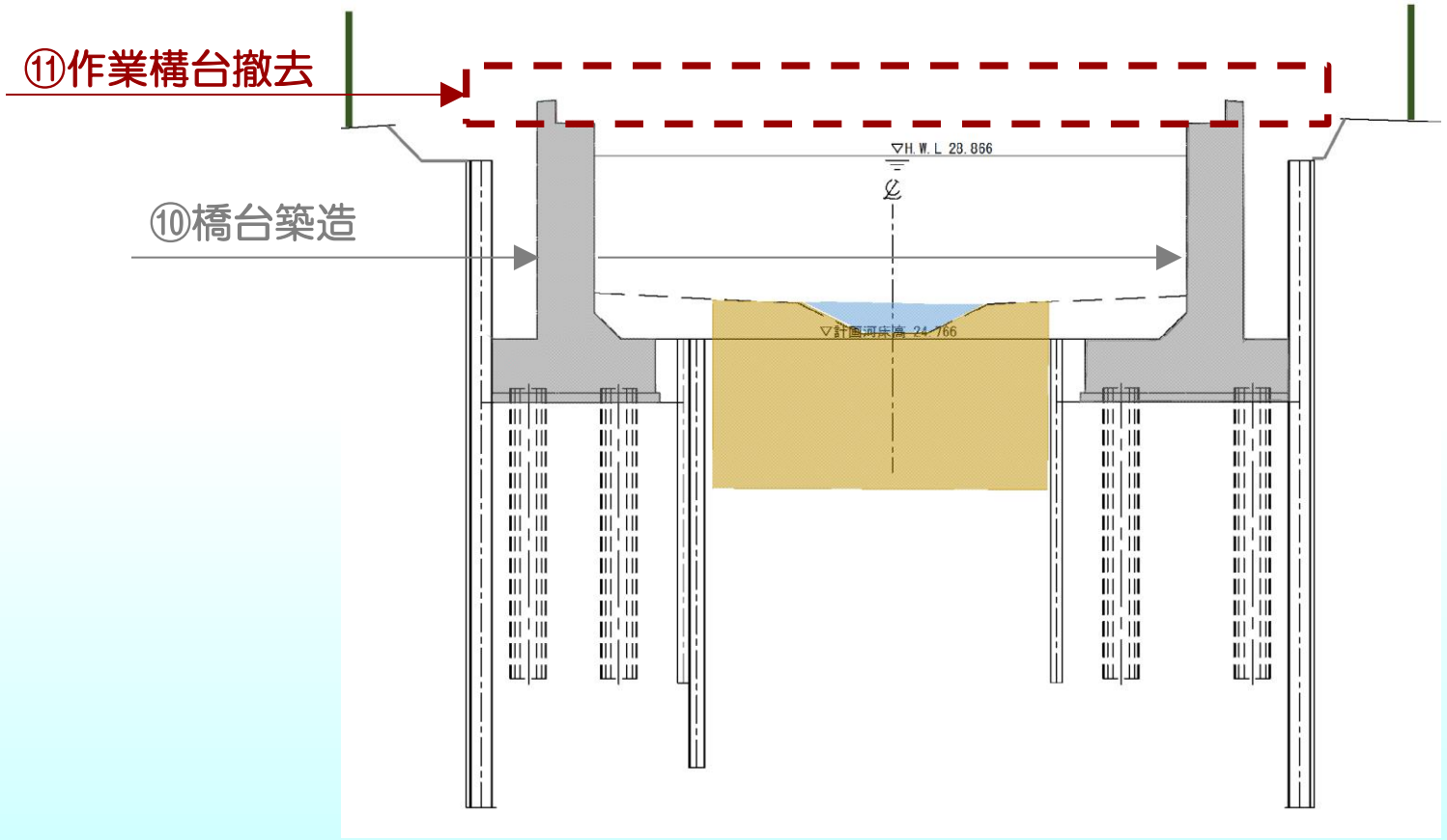
（5）土留杭の上に作業構台（茶色）を設置します。
（6）作業構台を設置しながら河川内に掘削用の締切鋼矢板と仮支持杭（赤色）を打設します。
（7）⑤と⑥を繰り返しながら、下流側に作業構台を設置していきます。
（8）既設の橋台（灰色）を取り壊していきます。
（9）既設の橋台を取り壊しながら、橋台の背面部の掘削（緑色）を行います。

柳橋架け替え工事　施工順序（１０）



（１０）既設橋台の取り壊しと掘削が完了後、新しい柳橋の基礎となる鋼管杭（赤色）を土中に埋めていきます。（計16本）

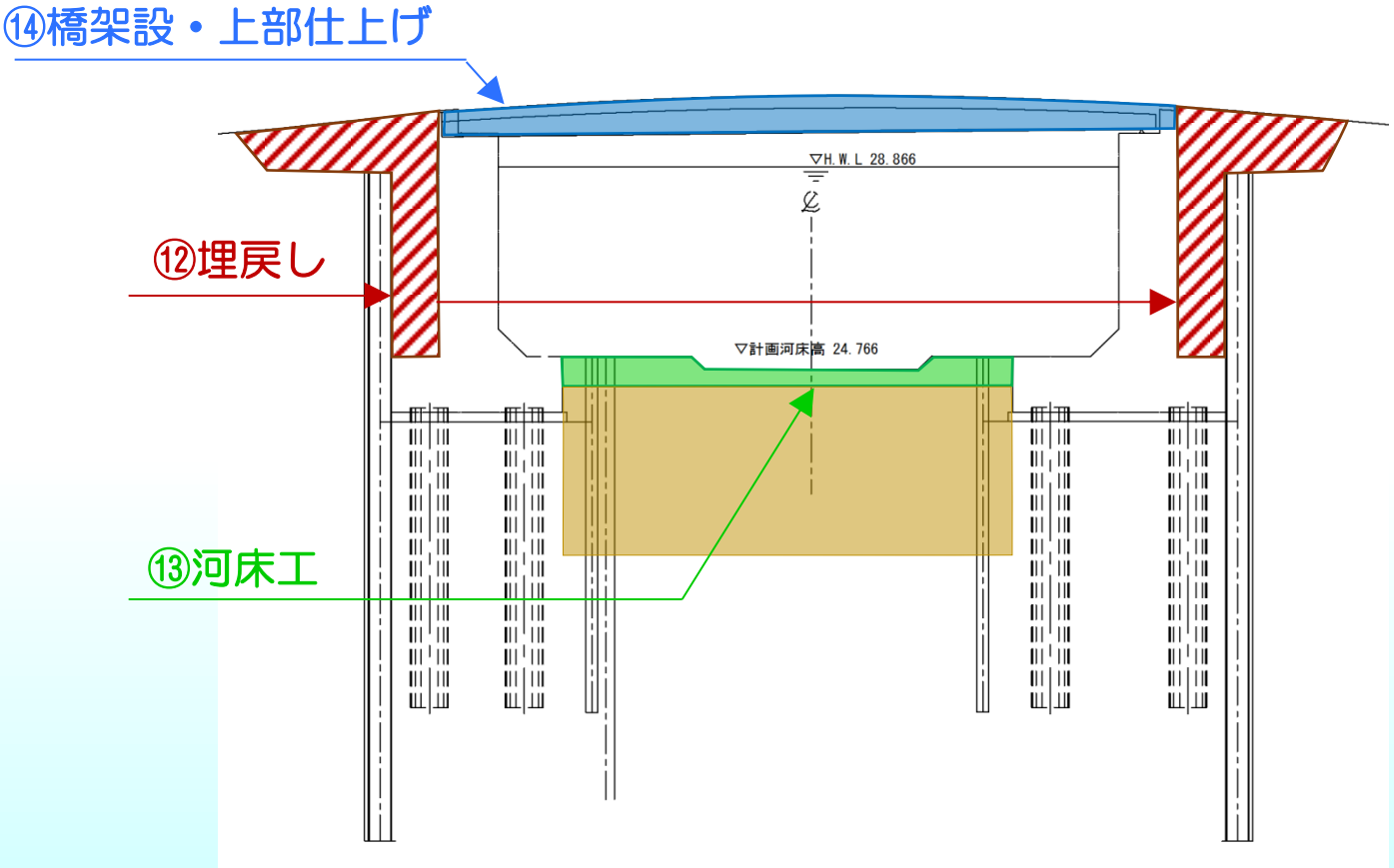
柳橋架け替え工事　施工順序（１１）～（１２）



（１１）鋼管杭の設置完了後、新しい橋台（灰色）を構築します。

（１２）橋台の構築完了後、作業構台（茶色）を撤去します。

柳橋架け替え工事　施工順序（１３）～（１５）



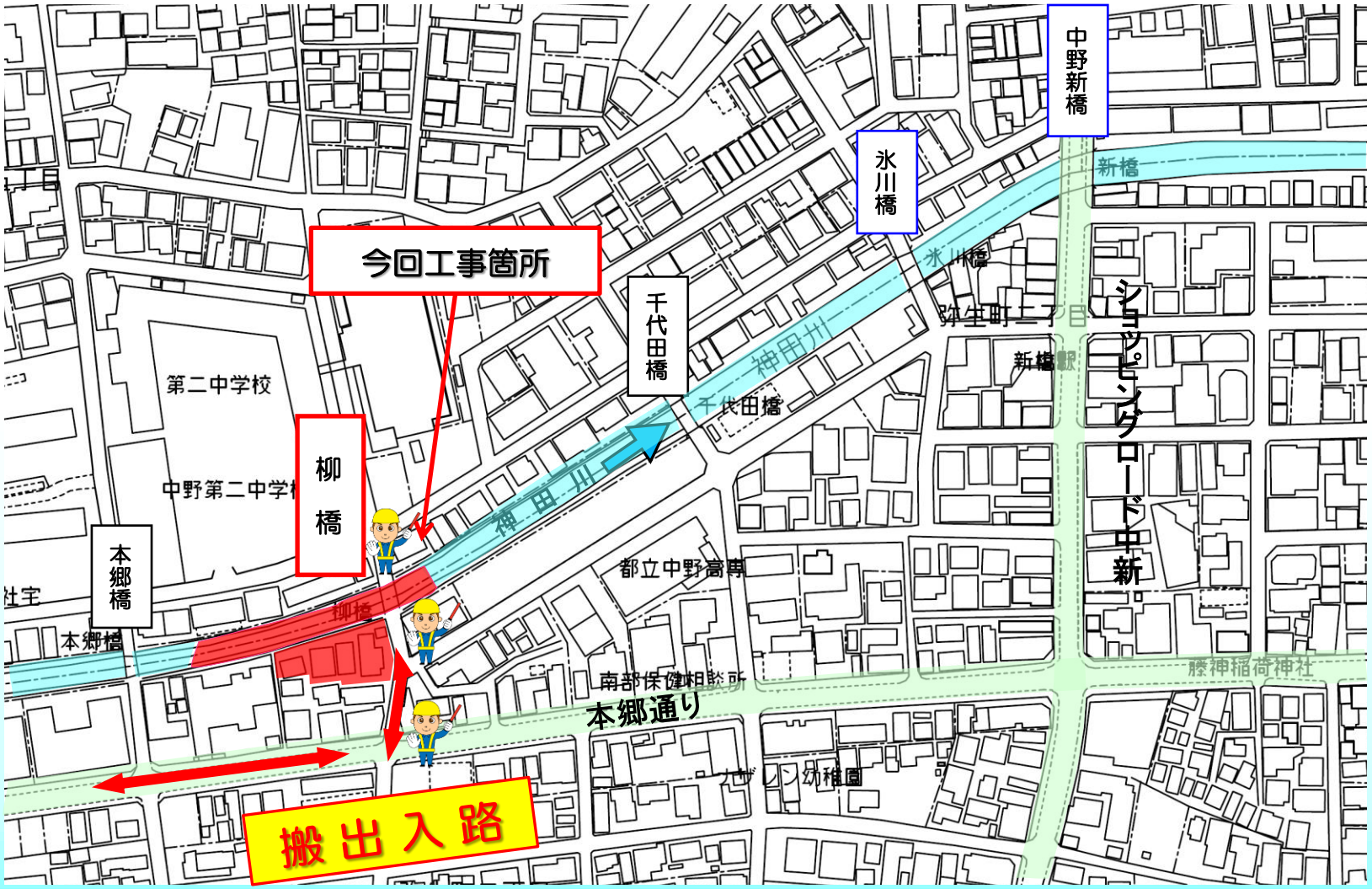
（１３）橋台の構築完了後、橋台の背面部の埋戻し（茶色）を行います。

（１４）埋戻し完了後、護岸整備と同様な方法で河床工（緑色）を築造します。

（１５）埋戻し完了後、新しい柳橋の架設及び舗装などの上部の仕上げ工事（青色）を行います。

工事用車両搬出入路

工事用車両搬出入路（1）

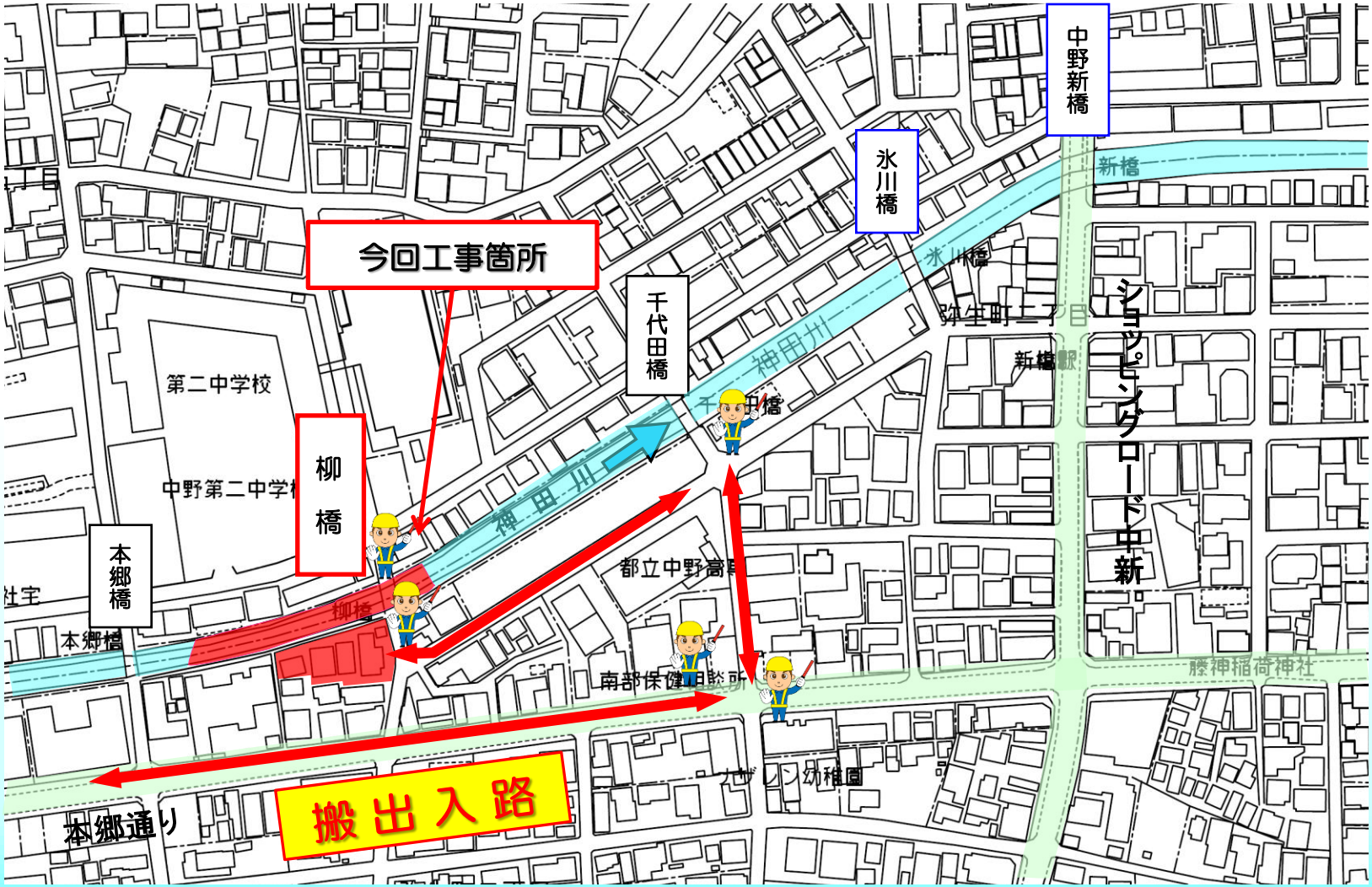


交通誘導員

【対象工種（予定）】
- 護岸工
（土工、河床ｺﾝｸﾘｰﾄ工）
- 橋梁工
（土工、橋台工、上部仕上工）

【対象車両（予定）】
- ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ
（10ｔ積・4ｔ積）
- ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ
（25ｔ吊）
- ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ車
- ｺﾝｸﾘｰﾄﾐｷｻｰ車

工事用車両搬出入路（2）



交通誘導員

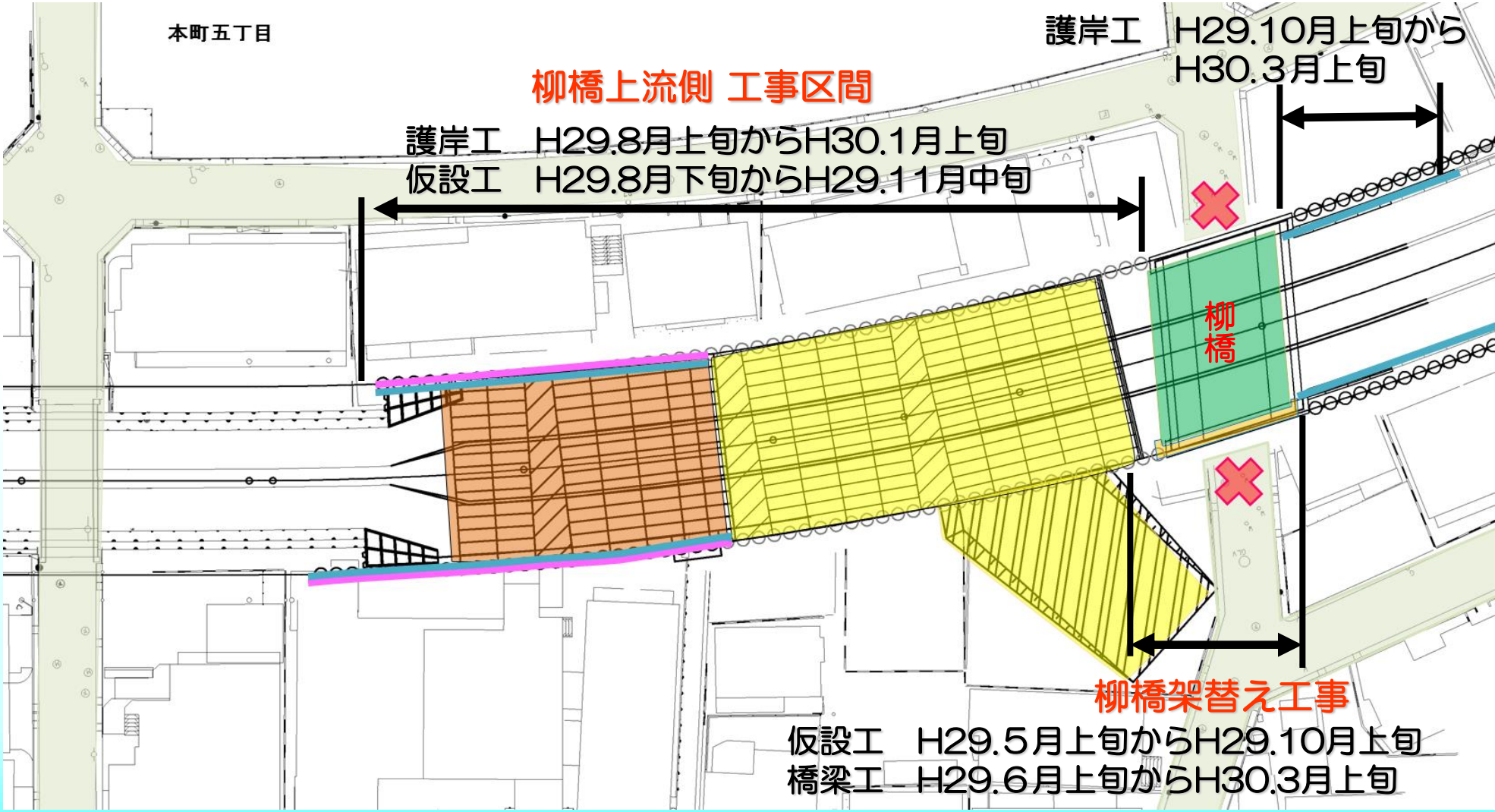
【対象工種（予定）】
- 護岸工
  （鋼管杭、新設護岸）
- 護岸部仮設工
  （作業構台）
- 橋梁部仮設工
  （作業構台、土留杭等）

【対象車両（予定）】
- ﾄﾗｯｸ
  （15ｔ積）
- ﾄﾚｰﾗｰ
  （30～40ｔ積）
- ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ
  （60ｔ吊）

全体工程表

平成29年
平成30年
2月
3月
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
1月
2月
3月
準備工
工事説明会
家屋調査等
護岸工
土工
護岸工事
河床コンクリートエ
雑工
仮設工
護岸部仮設工
橋梁部仮設工
橋梁工
旧橋撤去工
土工
橋台工
上部仕上・雑工
上部架設工
上部架設工は別途工事
後片付け
柳橋通行止
柳橋通行止 期間：H29年 5月～H30年 3月

全体工程


本町五丁目
柳橋下流側 工事区間
護岸工　H29.10月上旬から
H30.3月上旬
柳橋上流側 工事区間
護岸工　H29.8月上旬からH30.1月上旬
仮設工　H29.8月下旬からH29.11月中旬
柳
橋
柳橋架替え工事
仮設工　H29.5月上旬からH29.10月上旬
橋梁工　H29.6月上旬からH30.3月上旬

家屋調査について

東京都第三建設事務所

家屋調査とは

工事による近隣家屋への影響の有無について、

正確に判断する資料を得るため、

工事の着手前と完了後に家屋及び屋外の工作物を

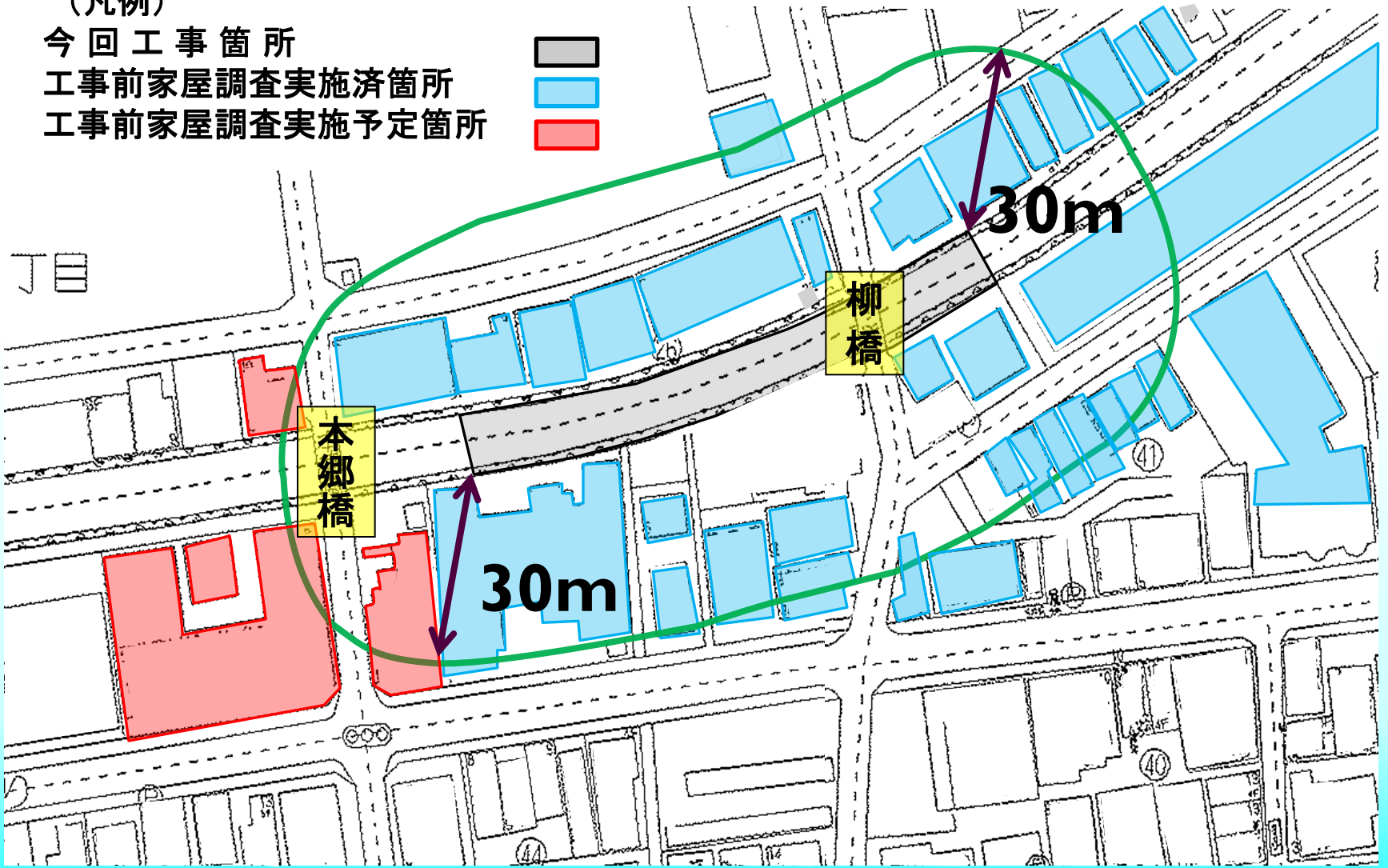
調査するものです。

　→着手前と完了後の家屋内外の状態を比較し、工事が原因で被害が生じたことが確認された場合、家屋復旧調査を行った後、金銭にて賠償します。

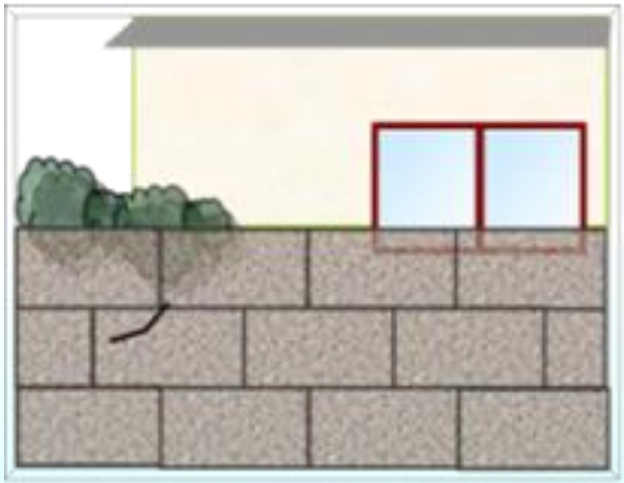
〇家屋への影響が想定される工事内容（例）

- 掘削、鋼矢板、支持杭打ち込み時の振動など

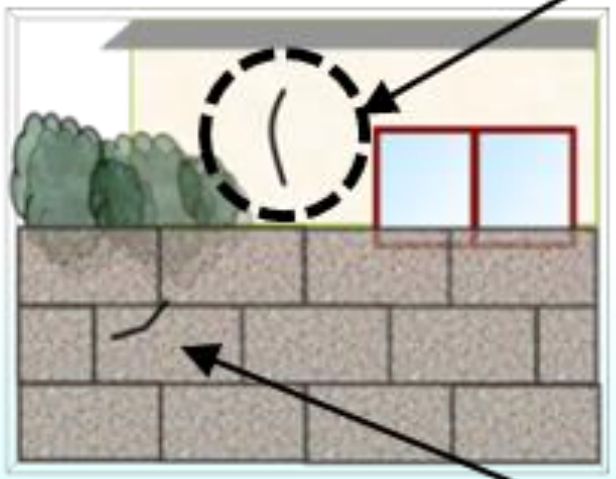
家屋調査対象範囲



家屋損害の補償について



対比



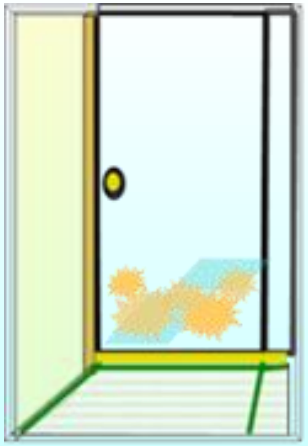
工事前

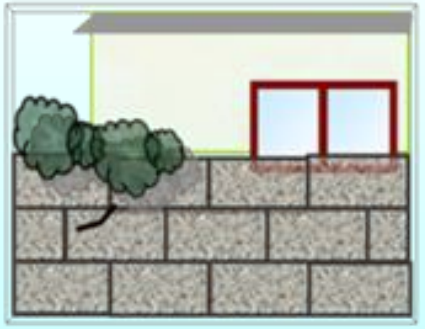
工事後

家屋調査の内容等

調査会社　東洋技建　株式会社

調査内容　屋内：柱や床の傾斜測定
　　壁や建具等の状態把握（写真撮影含む）
　　屋外：壁や塀等の傾斜測定
　　土間や扉等の状態把握（写真撮影含む）





※調査の際には、皆様方のお立会いをお願いいたします。
※調査期間は4月上旬～4月下旬に実施予定です。
※撮影した写真を含む個人情報は厳重に管理いたします。

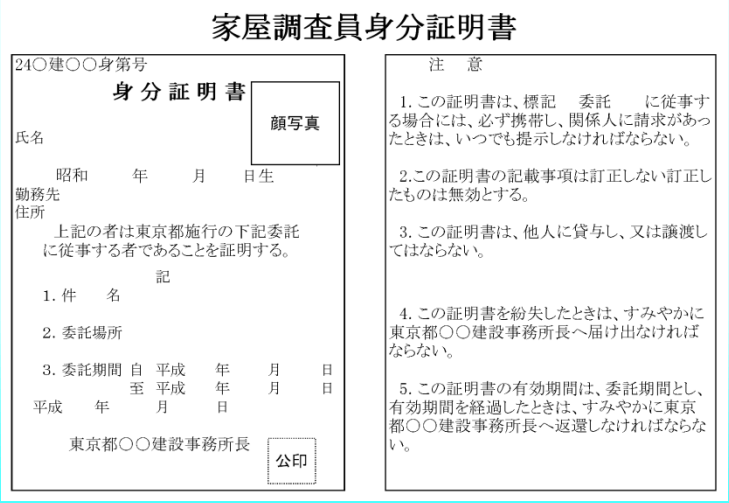
家屋調査手順について

工事説明会 → ※工事前家屋調査 → 工事着手 → 工事完了 → 家屋被害等の有無意見聴取 → 工事後家屋調査

工事施工期間

- 騒音調査
- 振動調査
- 地盤変動調査
- 井戸水調査

家屋調査員身分証明書



家屋調査員身分証明書

24〇建〇〇身第号

身分証明書

顔写真

氏名

昭和　年　月　日生

勤務先

住所

上記の者は東京都施行の下記委託に従事する者であることを証明する。

記

1. 件　名

2. 委託場所

3. 委託期間 自 平成　年　月　日
至 平成　年　月　日

平成　年　月　日

東京都〇〇建設事務所長　公印

注　意

1. この証明書は、標記　委託　に従事する場合には、必ず携帯し、関係人に請求があったときは、いつでも提示しなければならない。

2.この証明書の記載事項は訂正しない訂正したものは無効とする。

3. この証明書は、他人に貸与し、又は譲渡してはならない。

4. この証明書を紛失したときは、すみやかに東京都〇〇建設事務所長へ届け出なければならない。

5. この証明書の有効期間は、委託期間とし、有効期間を経過したときは、すみやかに東京都〇〇建設事務所長へ返還しなければならない。

腕章

家屋損害賠償の手順について

工事後家屋調査　実施（外部への委託）

平成30年度以降順次実施予定

工事後家屋調査　取りまとめ

↓

工事による家屋被害の認定

↓

家屋復旧調査

↓

賠償額提示

↓

交渉・賠償額のお支払い（金銭による賠償）

工事に伴う家屋調査と家屋損害賠償について

東京都第三建設事務所
工事第二課

別紙Ⅰ

はじめに

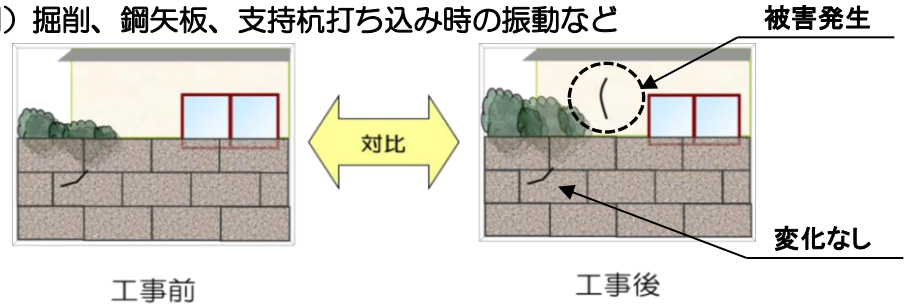
日頃より神田川整備事業にご理解、ご協力いただきありがとうございます。工事は、近隣家屋へ影響を及ぼさないように十分留意して進めて参ります。ここでは、工事に伴う家屋調査と損傷があった場合の損害賠償についてご案内させていただきます。

家屋調査とは

工事による近隣家屋への影響の有無について、正確に判断する資料を得るため、工事の着手前と完了後に家屋及び屋外の工作物を調査するものです。着手前と完了後の家屋内外の状態を比較し、工事が原因で被害が生じたことが確認された場合、家屋復旧調査を行った後、金銭にて賠償いたします。

【家屋への影響が想定される工事内容】

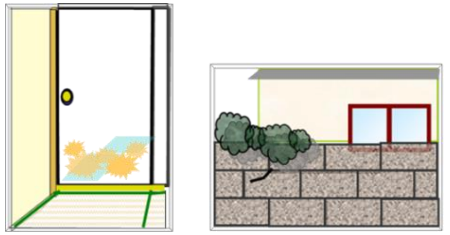
（例）掘削、鋼矢板、支持杭打ち込み時の振動など



家屋調査の内容

屋内：柱や床の傾斜測定、壁や建具等の状態把握（写真撮影含む）

屋外：壁や塀等の傾斜測定、土間や扉等の状態把握（写真撮影含む）



※調査は、都が委託した民間の調査会社が行います。

※撮影した写真を含む個人情報は厳重に管理致します。

注意事項

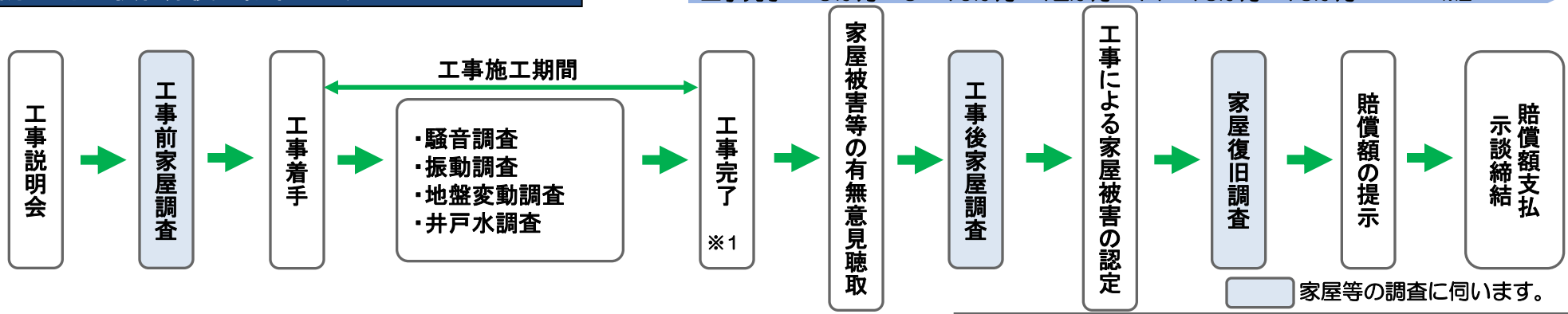
① 調査を辞退された箇所は、損傷と工事の因果関係を立証することが出来なくなるため、ご自身で因果関係を証明して頂かない限り、賠償することができません。

② 工事前家屋調査～家屋復旧調査の間に家屋等の補修・外壁の塗装などを行う際には、事前にご連絡ください。確認が出来ないまま家屋の補修等が実施され、損傷と工事の因果関係を立証できなくなった場合には、賠償することができません。

③ 家屋損害賠償は、金銭による賠償となります。また、損害賠償額は、被害を認定した時点の単価を用いて統一した基準により算定します。

家屋調査・家屋損害賠償の標準的な流れについて

工事完了 ～6か月　6～10か月　12か月　14～16か月　16か月～　※2



※1 工事の影響が複数の工事にまたがる場合には、影響する全ての工事が完了した時点となります。

※2 記載の期間はおおよその目安です。対象件数、内容、規模によって変更となることがあります。

（問合せ先）東京都第三事務所工事第二課
工事担当(03)3387-2103　渉外担当(03) 3387-2104

問い合わせ先

工事について、ご不明な点がございましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

発注者：東京都第三建設事務所工事第二課

みょうしょうじ かわ じぎょう　　すぎやま　ふじ
妙正寺川事業センター　杉山・藤
TEL:03-3228-1419

だいほう　くろべ
施工者：大豊・黒部建設共同企業体

現場代理人　　大矢（おおや）
監理技術者　　田中（たなか）
TEL:03-6304-8681